

日本共産党議員の質問から

大阪市議会教育子ども委員会が10日開かれ、日本共産党の江川繁、寺戸月美議員が質問に立ちました。

市立高への昇降機早急に

寺戸月美議員「あらゆる努力を」

寺戸月美議員



寺戸議員は大阪市立高校でエレベーター設置が遅れている問題で質問しました。大阪市では1993年から「ひとにやさしいまちづくり整備要綱」に基づいて、学校にエレベーターを順次設置。14年度末の設置率は小学校93%、

中学校98%、特別支援学校91%に対し、市立高校20校中5校にとどまっています(20校中、定時制2校は全日制と同一施設内のため、設置率28%)。寺戸議員は、エレベーターが設置されていない都島工業高校を見学した

経験を紹介。以前はクラブ活動での事故で下半身不随となり、車いす生活を余儀なくされた生徒のために、4人の教師が移動を支援したこともあると述べ、高校へのエレベーター設置が遅れている原因と今後の計画をた

ら紹介。市側は、「児童生徒数が多く地域住民も利用する義務教育の小中学校から整備している。高校は国から財政措置がない課題がある」と答弁。今年度末で市立2校にエレベーターを設置すると説明

しました。市側は、「児童生徒数が多く地域住民も利用する義務教育の小中学校から整備している。高校は国から財政措置がない課題がある」と答弁。今年度末で市立2校にエレベーターを設置すると説明

しました。寺戸議員は「国への要望などあらゆる努力をすべき」と主張。「生徒の教育環境確保、教職員の負担軽減という観点から、市の責任としてエレベーター設置を早急に進めるべき」と求めました。

講師不足で10週以上も放置

江川繁議員「抜本対策講じろ」



江川繁議員

江川議員は小学校での不足講師数が11月現在で43人(前年同月10人増)に上ることや、小学校では病欠休暇の代替教員が10週間以上も措置されていない人数が14人あるこ

とを示し、「大阪市の教育の深刻な状況は一刻も放置できないが、(改善は)遅々として進んでいない」と指摘しました。さらに「教職員が疲労困憊(こんぱい)し、学校

全体が荒れている「妊娠したが、管理職から『立場を考えよ』と言われる、上回っている背景にも、学校現場の困難があると、し、「犠牲になるのは子どもたち。重く受け止めるべきだ」と村上龍一、副市長にたたしました。村上副市長は「教育委員が答えるべきこと」と述べ、山本晋次教育長は「各校で対応が必要な状況。日々実情をこらえ、全力で対応している」と答弁。江川議員は教育委員任せにせず、教員配置のための予算措置など、市として抜本的対策を講じるよう強く求めました。

大阪市立小中学校の講師不足状況

	小学校			中学校		
	計	定数内	定数外	計	定数内	定数外
14年度 4月	0	0	0	0	0	0
5月	3	0	3	1	0	1
6月	9	0	9	1	0	1
7月	10	0	10	4	0	4
8月	—	—	—	—	—	—
9月	27	7	20	1	0	1
10月	20	6	14	1	0	1
11月	32	6	26	3	0	3
12月	34	5	29	2	0	2
1月	34	6	28	0	0	0
2月	36	6	30	5	0	5
3月	24	5	19	9	0	9
15年度 4月	0	0	0	0	0	0
5月	7	1	6	0	0	2
6月	12	1	11	3	0	3
7月	16	2	14	3	1	2
8月	—	—	—	—	—	—
9月	34	10	24	4	0	4
10月	43	10	33	4	3	1
11月	43	9	34	6	1	7
12月	41	12	29	6	0	6

江川議員提出資料より作成。数値は毎月初め現在。8月は夏休み中のため除く。